

令和5年度地方教育行政功労者表彰について

地方教育行政功労者として、本県では次の方々が文部科学大臣から表彰されます。

1 表彰の趣旨

地方教育行政において、その功労が特に顕著な教育委員会の委員等を文部科学大臣が表彰し、その功に報いるとともに、地方教育行政の発展に資する。

2 被表彰者

	氏名	主要経歴
県教育委員会関係	ししだ 志々田 まなみ	現 広島県教育委員会委員
市町教育委員会関係	さとう 佐藤 昌弘	前 尾道市教育委員会教育長
	うまやはら 馬屋原 健治	前 神石高原町教育委員会教育長

3 被表彰者の概要

別紙のとおり

4 表彰式

- 令和5年10月12日（木） 12時20分から14時20分
- 文部科学省講堂（東京都千代田区霞が関3-2-2）

5 参考

この表彰制度は、昭和58年度に発足し、令和4年度までに本県からは、163名（県教育委員会関係18名、市町教育委員会関係145名）が表彰されています。

令和5年度 地方教育行政功労者表彰 被表彰者の概要

ししだ
志々田 まなみ

1 略 歴

平成27年10月6日	広島県教育委員会委員に就任
令和元年10月6日	広島県教育委員会委員に再任
令和5年10月6日	広島県教育委員会委員に再任

2 功労の内容

(1) 功労全般

卓越した見識と高潔なる人格、確かな洞察力・指導力に加え、社会教育を専門とする研究者の視点から、広島県教育行政の重要な施策の審査、決定に参画するとともに、学校訪問等を行い、教育現場の実態把握に努め、教育委員会会議の議論に反映させるなど、積極的に本県教育行政の推進に取り組んできた。

(2) 主体的な学びの推進

これまでの知識・技能の習得を重視した学びに加え、獲得した知識・技能を活用し、協働して新たな価値を生み出すことを重視した主体的な学びの充実を図る「広島版『学びの変革』アクション・プラン」を着実に遂行し、変化の激しい社会を生き抜くことのできる資質・能力の育成に積極的に取り組むとともに、「学びの変革」を先導的に実践する学校（広島叡智学園中学校・高等学校）や、県北における「学びの変革」リーディングスクールとしての県立三次中学校の設置に向けて尽力した。

(3) 広島県教育の推進

「広島県教育に関する大綱（令和3年2月策定）」の策定に積極的に取り組み、一人一人が生涯にわたって主体的に学び続け、多様な人々と協働して新たな価値を創造する人づくりが実現できる、広島らしい教育の推進が行われるよう尽力した。

また、広島県女性教育委員グループの会長として、年2回の研修を主催して会員相互の連携を密にし、県内教育委員活動の活性化を図ることにより、県民の教育の向上並びに福祉の増進に寄与した。

(4) 乳幼児教育の推進

子供が育つ環境に関わらず、全ての乳幼児にこの時期に育みたい力の育成に向けた教育・保育が、家庭、幼稚園、保育所、認定こども園などで行われ、小学校以降の教育の基盤が培われることを目指して『遊び 学び 育つ ひろしまっ子！』推進プラン（第二期）」を令和4年3月に策定し、本県の全ての乳幼児の健やかな成長に向けて尽力した。

令和5年度 地方教育行政功労者表彰 被表彰者の概要

さとう まさひろ
佐藤 昌弘

1 略 歴

平成25年4月1日 尾道市教育委員会教育長に任命

令和5年3月31日 同 退任

2 功労の内容

(1) 功労全般

尾道市教育委員会教育長に就任以来、教育、学術及び文化に関する高い識見と指導力を発揮し、策定した「尾道教育総合推進計画」を着実に遂行して円滑な教育行政の推進に尽力した。

(2) 学校教育の推進

「尾道教育総合推進計画」(平成23年度～平成28年度)を継承発展させ、尾道教育総合推進計画(後期)(平成26年度～平成28年度)、尾道教育総合推進計画(平成29年度～平成33年度)尾道教育総合推進計画(令和4年度～令和8年度)を策定し、尾道に愛着と誇りをもちグローバルに躍動する人づくりを基本理念に、郷土について学び、誇りをもたせる、ふるさと学習を推進する一方、台湾の小中学生とのインターネットを介した交流、児童生徒作品の相互展示、対面での交流事業を実施するなど、尾道教育の更なる充実、発展に取り組んだ。

学校の自主性、自立性を確立させ、校長のリーダーシップのもと、学校教育目標の実現に向け組織的な学校運営を推進し、入学式等の見直しに引き続き取り組んだ。

学校の適正配置に取り組み、小・中学校統合と幼保一体化(認定こども園設置)に尽力した。

校舎耐震化のほか、普通教室に加えて理科室、家庭科室、美術室などの使用頻度の高い特別教室へ空調機器を整備し、児童生徒の安全確保と教育環境の向上に尽力した。

老朽化した給食調理場の更新と、中学校給食の実施という課題に直面する中で、デリバリー給食の導入という工夫も取り入れながら、令和3年に学校給食施設整備計画を策定し、令和8年度からの中学校全員給食実現への道筋を付けた。

(3) 生涯学習の推進

人生100年時代を見据え、既存の公民館の耐震化や空調機器等の更新を進めたほか、生涯学習の拠点として、平成29年度に東生口公民館、令和3年度に土生公民館を建設した。また、平成30年度に向東公民館が、令和3年度に重井公民館が文部科学大臣から優良公民館表彰を受けた。

開かれた美術館づくりの取組では、季節毎に対象となる年齢層を意識した展覧会を企画・開催し、年間を通じて幅広い世代が芸術に親しむことのできる環境を整え、市民の美術鑑賞機会を充実させた結果、令和4年度の尾道市立美術館入館者数は71,032人となり昭和55年の開館以来最多となった。

令和5年度 地方教育行政功労者表彰 被表彰者の概要

うまやはら けんじ
馬屋原 健治

1 略 歴

平成26年12月23日 神石高原町教育委員会教育長に任命
令和5年3月31日 同 退任

2 功労の内容

(1) 功労全般

神石高原町教育委員会教育長に就任以来、社会情勢が大きく変化する時代を背景に、連携型中高一貫教育の推進、オーストラリア海外研修、広島県立油木高等学校の存続に向けた魅力化の推進、GIGAスクールやコミュニティ・スクールの導入など、神石高原町総合計画に掲げる「人と自然が輝く高原のまち」の実現を目指し、豊かな知識と経験を基に、指導力を発揮し、教育行政の推進とその充実に努めた。

また、平成29年には、神石高原町教育振興計画を策定し、学校教育及び生涯にわたり輝く人材を育む学びの推進に尽力し、神石高原町の教育の魅力化に寄与した。

(2) 学校教育の推進

変化の激しい社会を生き抜くために必要な資質・能力の向上を目指した主体的な学びを促す教育活動を積極的に推進した。令和3年度から、学校運営協議会を全小中学校に設置し、地域と学校が一体となって子供を育成する教育環境を整備した。外国語教育では、全小中学校に外国語指導助手を配置し、外国語教育の充実に努めるとともに、平成29年にオーストラリア・バンダバーグクリスチャンカレッジ校と連携協定を締結、中高生を語学留学に派遣し、国際理解教育を進めるとともに、世界で活躍する人材を育てる教育を推進した。連携型中高一貫教育では、公設塾の開設や放課後ゼミの開設、海外研修の実施など、町内の2中学校と油木高等学校の連携強化に尽力した。現在では、小中高を通じた町教育の魅力化へ繋がる好循環となっている。平成29年度から、未来を担う子供達が、自分たちが暮らす地域の課題やまちづくりに対する思いを発信する次世代議会の開催など、教育活動を通じた神石高原町の魅力化に寄与した。

(3) 生涯学習の推進

「教養のまちづくり」を推進するため、「読書・感想文コンクール」などの実施により、読書習慣定着に向けた取組を充実させ、教養を高める環境づくりに努めた。芸術・文化活動では、各種団体の活動支援を行うとともに、小中学校巡回演奏会等、質の高い芸術・文化の体験、鑑賞ができる機会の提供や、神石高原町の文化資源の活用に努めた。生涯スポーツの推進については、活動団体の支援や少年・少女のスポーツ団体の育成などを行い、地域の要望やライフステージにあわせたスポーツの推進・普及を行った。